



埼玉医科大学医学部 同窓会会報

第43号

平成21年1月



巻 頭 言

会長 **わた なべ ゆう こう**
渡 辺 雄 幸



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。おかげ様で同窓会の活動も順調に行われており、これもひとえに皆様のご協力ご支援の賜と御礼申し上げます。次第であります。

さて、医療崩壊がますます加速する中、ようやく医師不足の現状を認めて、昨年末には、医学部の定員大幅増が決定しました。これは即ち、医療費抑制政策一辺倒であった従来の方針が、明らかに転換された画期的なことであると思います。しかし医師の地域的な偏在、診療科の偏在、財源の問題、また臨床研修制度の見直しなど、まだまだ先は見えません。

また、医療界に激震を起こした、福島県立大野病院産婦人科の裁判が結審しました。判決は私たちをほっとさせたものではありません。今年の私立医科大学同窓会連絡会の講演でもテーマとして取り上げられましたが、医療安全調査委員会（仮称）も、なかなか進展がみられていないようです。やはり一番の問題点は、委員会の調査結果が、刑事訴追に使われる可能性が高いということであると思います。

今年4月に予定されている介護保険の改定では、介護報酬が3%増に決まりました。今回はじめてプラス改訂になったわけですが、介護関連の仕事の大変さと、報酬の低さ、離職率の高さが指摘されている現状を、少しでも改善できるのでしょうか。今後ますます増える要介護人口、今のままでは、介護環境の崩

壊に繋がりがかねません。

さて、同窓会では、昨年6月の総会で、相木初代同窓会会長と、嶋初代副会長の労をねぎらう会を開催しました。多数の出席をいただきまして、盛大に行うことができました。ここにあらためて御礼申し上げます。お二人には引き続きご助言をいただきながら、同窓会を盛り上げて行きたいと思います。また総会にご出席の方全てに、必ず一言ご発言していただけるように運営していきたいと考えております。一人でも多くの方のご出席をお待ちしております。

8月には、大学の医学教育ワークショップの場において、卒業生の動向（卒業生の現況、同窓会から大学の教育に望むこと）と題して発表の機会を得ました。大学の教職員を対象にした、今後の教育方針にかかわる公式の席で、同窓会として発言できたことは、設立以来始めてのことであり、大変喜ばしく思っております。学内外にあって、教育に従事されている全ての同窓生の実績が、大学側に評価された結果であると思います。

11月の私立医科大学同窓会連絡会では、女性医師の問題が話題になりました。女性会員に対する配慮が欠けておりましたことを反省すると同時に、これから現状を調査し、検討していきたいと考えております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝ご繁栄を祈願いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。